

僕を支えるご飯

江上小学校六年 小嶺 理大

僕はご飯に支えられながら生きています。嫌なことがあった時、悲しい時、苦しい時、怒られた時・・・僕は必死にご飯を食べる。そうすることでお腹の底から元気が湧いてきて、こんなことも乗り越えられるような気持ちになる。

僕が毎日、おいしくご飯をいただくことが出来るのは、たくさんの方々に「米」に関わる方々の努力があったからこそだ。お米を作って下さる農家の方々はもちろん、精米や販売に携わってくたさる方々、美味しくご飯を炊いてくれる家族や給食のおばさん等々・・・だから僕はご飯をいただく時、いろいろな方向に向かって感謝と敬意の念を込め、「いただきます」と唱えるようにしている。

去年、体験学習の一環で「代かき、田植え、稲刈り」と米づくりの一通りの流れを経験させてもらった。僕が経験したのは米作りのほ

んの一部の作業だが、その際、足腰の痛みと共に「ああ、お米を作るのはこんなにも大変なのか」と実体験を通して知った。この経験から、僕の心はさらに感謝の気持ちでいっぱいになった。それ以降、僕は以前にも増して一粒一粒を噛みしめながら、ご飯を味わっていただくようになった。

美味しいご飯といえば、学校の給食を忘れてはいけな。以前、僕はクラスメイトから「ごはんくん」と呼ばれていた。給食でお皿

いっぱいのご飯を毎回一粒も残さず完食しているからだ。その食べっぴんに僕はクラスメイトから「僕<sup>イコル</sup>はごはん」と認識された。食いしん坊のようで普通は嫌加るのかもしれないが、僕はむしろ誇らしい。僕がおいしそうにご飯を頬張る姿を見て、みんなも「ご飯好きになっしてくれたら嬉しいからだ。

ご飯と言えは、おむすびも欠かせない。一口食べると、「さあ、頑張るぞ！」と前向きな気持ちになれる。おむすびは、まさに僕の

カめした。塾へ行くのが嫌な時、僕は一口、  
 おむすびを頬張る。すると「かんぱう！」  
 とやる気スイッチがオンに切り替わる。大好  
 きなご飯がまたらす素晴らしい魔法の効果の  
 一つだ。僕はこれからもこうしてご飯の力に  
 助けられてゆくことだろう。

さて、「ごはん」といえば、今の僕のプ  
 ムは、お米をいかに美味しく炊けるか、につ  
 いての研究だ。ある人は「土鍋で炊いたらお  
 いしく炊けるんじゃない？」という。またあ  
 る人は「ミネラルウォーターで米を研いで炊  
 くといいよ」という。いつの日か僕は米の炊  
 き方もマスターして、米一粒一粒の美味しさ  
 を最大限に引き出したいと思う。さらに欲を  
 いえは米を使ったおいしいレシピも考察して  
 みたい。そしていつの日か僕が炊いたご飯や  
 米レシピで家族が喜ぶ顔を見られたら・・・  
 そう考えるとついついにやけてしまうのだ。  
 僕とご飯の長い長い付き合いはまだ始まっ  
 たばかりだ。